平成29年度富山県文化審議会

日　時：平成29年７月４日（火）午前10時00分～
場　所：富山県民会館401会議室

議　事

「新世紀とやま文化振興計画」の改定（中間報告案）について

【会長】

本日は、前回に引き続きまして、新世紀とやま文化振興計画の改定についてご審議いただきます。

初めに、事務局より、文化振興計画の改定の経緯と文化振興計画改定の中間報告案（概要）について説明し、その後、委員の皆様からご意見、ご提案をいただきたいと思います。

それでは、事務局からお願いいたします。

＜　事務局説明　＞

【会長】

ただいま事務局から、新世紀とやま文化振興計画改定の中間報告案の説明がありましたけれども、今ほどの事務局の説明も踏まえまして、委員の皆様から、計画改定の中間報告案に関するご意見や、計画に盛り込んだらよいと思われる具体的な取組みや事業のご提案などについてご意見を伺いたいと思います。

【○○委員】

家持の生誕1300年記念事業の一つとして、世界を対象にした優れた詩歌を顕彰する大伴家持文学賞を創設されるということ、これは、富山から世界へ発信するというスケールの大きさから誠に意義がある。しかし、新聞報道などでは賞金が100万円とありますが、果たして100万円というのは妥当なのかどうか。大体、文学賞というのはお金が少ないとなかなか応募が集まらない。この賞は大変すばらしいと思うので、せめて県が主催するんだから、

金額については、また少し検討していただければありがたい。

【○○委員】

ふるさとの歴史と文化の再発見と発信について、富山の中にも、むぎやあるいはこきりこ、おわらをはじめいろいろ、子どもたちもずっと継承しているものがしっかりあるわけでして、そういうものを通して、都会の子どもたちと交流できるようなものがあっていいと思います。

どういうふうに交流先を見つけていくかというマッチングの問題などがありますけれども、人の交流にもつながりますし、ふるさとの民謡などを大いに発信できる可能性があると思います。

【○○委員】

先ほど知事からご紹介のあったシアター・オリンピックス、これは2020年のオリンピック・パラリンピックの文化事業という意味でも非常に発信力がありますので、正式に決まりましたら富山・利賀から発信していただきたい。それから、ＳＣＯＴがニューヨークと北京で公演し、特に北京ではほぼ満席で、6,000人近い方が見てくださった。ある観覧者の方がぜひ今度は利賀に来て芝居を見たいと言ってくださっていたので、世界に発信する中で、観光客というか富山を訪れる方を増やしていくような、文化を通じた世界的な誘客も可能性があると思います。

【○○委員】

広く県民の人たちに芸術文化に関心を持ってもらうことがさらに必要かなと、まず思っております。また、次代を担う子どもたち、青少年の活動で、直接の体験、感動体験が必要という中で、子どもの感性とか感受性の部分についても、芸術文化は大きな役割を果たすと思っております。

昨年、とやま世界こども舞台芸術祭2016が開催され、本当に多くの子どもたちが参加される中、やはり国際交流、芸術文化を通して、いろんなものが確実に浸透したと思われます。ただ、学校教育との連携があって、学校単位で参加もしていただいたんですが、もっと広く子どもたちに見に来てもらったり、参加型になったりすればいいと思います。

アドバイザー事業というのがありますが、芸術家が学校へ出向いたり、いろんなところ

に招聘されて指導するということも大事です。また文化ホール事業でも、学校コンサートとかいろいろな場所へ自ら出向いてということもあると思いますが、やはりもっと学校と芸術文化の連携みたいなものも考えていったらいいのかなと思いました。

【○○委員】

計画には、10年間で目標とする指標にどう到達するかという、実際の推進体制が記載されていないと思います。その推進体制を明記することで、それぞれの関係者がどう行動につなげていけばいいかということがはっきりすると思います。

それと、学校教育との連携で、小学校などで出前公演がありますが、その際、子どもたちが舞台に出て発表するという機会を取り入れると、子どもたちが興味津々で、感激して、公演が盛り上がっていい効果だなと思いました。単なる鑑賞だけでなく、体験をする機会をつくっていただけたら、なお一層子どもたちの感性が磨かれると思います。

あと、小学校などで地域のふるさと教育に「すてき発見」という、小学生が、グループに分かれて、自分たちの住んでいる地域のいろんな由緒、歴史ある神社を訪ねたり、施設を訪ねたりというふうな授業があるんですが、学年が上に行くに従ってそういうものが無くなっていると思います。

人口減少とともに中央への人口流出を防ぐには、子どもがふるさとに魅力を感じるという、発達段階に応じたそういう教育が必要かなということで、これは学校教育との連携が必要と私は思っています。

【○○委員】

２点お話ししたいと思います。

１つは、歌人連盟のアウトリーチで参加している授業で、ある小学校の５年生に大伴家持について何か知っていることはないかと聞いたら、全く声が上がらないんです。これが実態かなと。県民も20％の方がほとんど知識がない。

やはりもっと現場に入り込んで、例えば、家持の簡単な劇場、ドラマをちょっと演じてみたり、そういうものを小学校に赴いて、シアター的に見てもらったり、クイズをしたりとか体験型を増やす。

また、学校というのは地域の文化施設になりますので、小学校で開くときに地域の方に参加してくださいと簡単なチラシをお配りして、地域にも普及させることが可能なんです

ね。

大伴家持についての知識理解がまず、子どもたちや地域にも広がる可能性があるので、アウトリーチとしてぜひ進めていただきたい。

実際、大伴家持につきましては、漫画などが学校に配られるわけです。これも大変効果はあるんですが、例えば学期に１回は大伴家持について全校にお話しするとか具体的な方針を出したほうが効果が高いんです。

あともう１点ですが、愛好者の高齢化もありますし、団体を率いていくメンバー、スタッフの高齢化も今問題になっております。何とか会員増員という形で、ジュニアを育成しようと動いておりますが、限界があります。文化関係のジュニア育成をする場合に、何か支援していただけるようなシステムをつくっていただけないかと思います。

【○○委員】

農水省の援助を得て、富山フラワーネットワークというのがあって、それから補助をいただいて、幼稚園などに無料で、生け花の講習会をしていますが、補助のあるときだけやるというのもだめなんで、今までは何回か無料で生け花を教えていただいた。今度は自分たちでちょっとでもお金を出して生け花をやろうと受講生に思わせれることができれば、いいかなと思っています。

【○○委員】

富山県美術館の中ですばらしい作品と子どもたちが出会う機会をたくさんつくっていただく、それからアトリエやギャラリーで子どもたちの双方向の体験をするということで計画されていますが、東京やいろんなところでやっているノウハウをそのまま持ってくるということではなく、やはり富山らしさとか富山の子どもに合ったものも必要ではないかなと思っています。

これから美術館に子どもたちがどんどん行って、どんどん美的な感性も育って、先ほど新たな価値創出というのがありましたが、みんなが美術の専門家になるんではなくて、趣味や自分の心の栄養として、美術、音楽などいろんな文化が子どもたちの成長に大きくかかわっていったらいいのかなと思っています。

【○○委員】

富山県美術館、略称をＴＡＤというふうに言うんですが、例えば工芸とアート、アートとデザインをつなぐ場ということも、連携していろいろなことができるかなというふうに思っていますし、工芸というのも重要なものであります。

美術館で大学での教育の成果を見せながら、さまざまなワークショップなんかも一緒にやり、課題になっている子どもたちが体験するという場をつくることができればよいと思います。

【○○委員】

皆さんから出ていた意見を聞くと、計画をどう現場に出て進めていくかが非常に大事なのではないかなと、けれどもそれは、85ページの「文化振興のための体制づくり」に尽きるのではないか。

計画には役割の表があって、線で枠で囲まれていますけども、ぜひこの枠にとらわれないように、オーバーラップして、フレキシブルに動けるようなことも少し考えていただければなと思いました。

また、今、美術館に高校生まで無料で入れると思うんですけども、大学生は無料で入れないんですね。欧米では大学生であろうと専門学生であろうと、学生と言われる者はほとんど無料で入れるらしいんです。大学生の入館料無料化をぜひご検討いただけないかなと思います。

【○○委員】

学校教育の面で考えると、授業の中で美術館と連携して、訪問して鑑賞するということを行っていますが、定着ということがやはり難しくて、生徒もやはり多忙で、休日に自主的に美術館へ行くという生徒は少ないです。

興味が足りない子どもたちにどのような種を植えつけるのかというところが学校教育の課題なんだろうなと思いました。

また、高校は芸術３教科、書道、美術、音楽の選択ですが、年々少しずつ美術が減っていっている状況です。考えてみると、小学校、中学校でどのような図画工作、美術の教育を受けてきているのか、やっぱり学校によってちょっと内容が違うので、その把握も必要なのかなと思います。

【○○委員】

ファミリー世代、子どもたちをどう地域行事や文化振興の行事等に参加させていくかというのが課題であるなと思いました。

伝統行事であるふるさとのお祭りの参加がすごく減っている、そもそも参加する子どもがいないというのが実情なんですけれども、そのほかの理由としては、やはり余暇の過ごし方が多様化しており、本当に子どもたちは忙しいんです。

実際どうしていけばいいのかということで、放課後子ども総合プランで、地域の公民館と連携協力して、お祭りの練習をしている地区もあったり、あと、民謡も地域の有志の方が熱心にご指導してくださっています。そういった地域の現状がどういうふうになっているのか調査していただいて、補助とかあるとありがたいと思っています。

【○○委員】

文化芸術には才能、スターが必要だと思うんですよね。例えば藤井四段が出てきて、将棋に非常に多くの方が興味を持たれたと思います。芸術教育においても才能を伸ばしていくという面も１つ重要じゃないかと思います。